

第2期上下水道事業経営委員会（第5回）の主な質疑

【HP版】

平成30年2月27日（火）10時00分～11時30分

上下水道局3階301会議室

質 疑	答 弁
【1 平成30年度予算(案)について】	
<p>A委員 高岡市の財政状況が厳しい中で、一般会計からの繰入金に影響はあるのか。</p>	<p>上下水道局 一般会計からの繰入金は、国から市への交付税を基に、市財政当局との協議を経て繰入れがなされている。下水道事業への繰入は雨水対策や建設投資にかかる経費等である。</p> <p>下水道事業については、平成10年頃まで年間40億円から80億円規模の建設投資が行われ、現在500億円を超える企業債残高があり、毎年度の償還額が大きな負担となっている。</p> <p>このような中、平成30年度予算における一般会計繰入金は、前年度から5000万円の増額となっている。繰入金については、今後も市当局と調整を図っていきたい。</p>
<p>B委員 人口減少に伴う収入減が見込まれるなかで、コスト削減、技術継承や事業の効率化の観点から民間委託や一部業務のアウトソーシング等を検討しているか。</p>	<p>上下水道局 現在、検針から料金徴収までの包括的な民間委託を行っている。平成26年度に上下水道組織統合、今年度は簡易水道事業を経営統合し、組織の簡素化、業務の効率化、経費の節減に努めている。</p> <p>今後は広域化も視野に入れ、退職者の補充も考慮しながら、業務委託の拡大についての検討をしていきたい。</p>
<p>B委員 AI や IoT が注目を集めているが、上下水道事業への導入を検討しているか。</p>	<p>上下水道局 スマートメーターの導入等、地域にあったシステムの活用・導入方法を検討していきたいと考えている。</p>
<p>C委員 県西部の上下水道事業者間で、民間委託や広域化等の課題について検討されているか。</p>	<p>上下水道局 現在、国の指導で県が主体となり検討体制を構築し、各事業体の現状把握をする中で広域化への検討がなされている。</p> <p>その中で県西部6市は、地域性や県受水団体である等つながりが特に深く、業務委託や物品の共同発注、施設の共同利用等、広域化への研究を進めることとしている。</p>
<p>D委員 積雪により水道メーターが確認できない場合の対応はどうしているのか。</p>	<p>上下水道局 積雪のためメーター検針ができない場合には、過去の実績から推定した水量を仮の使用水量として料金算定させていただき、次回検針時に精算している。</p>

	「市民と市政」(市広報誌)の記事をわかりやすく、見やすくできないか。		記事内容について、更に見やすく読んでいただけるように市広報部局と調整を図っていきたい。
	水道本管が布設してあるのに、井戸水を使用している家庭への水道利用の勧誘を行っているのか。		福岡町南部地域では、地下水を利用されている方が多く、毎年職員が水道利用の勧誘を行っている。今後も引き続き、安全で安心できる水道水をPRしていきたい。
E委員	水道施設のフェンス設置について、国から防犯設備に関する指示があったのか。	上下水道局	厚生労働省から水道施設において不審者に対する侵入防止対策を講じるよう指導があり、今後、全施設を対象に優先順位を決めて、フェンスで囲む予定としている。
E委員	フェンス設置について、市民への施設の開放という観点ではどうか。	上下水道局	国吉配水池は、市民に広く利用されているつつじ公園の中にある。今後、市民の利用と施設の安全対策を検討した上で、フェンスの設置を計画したい。フェンス設置までは、監視カメラを設置するなど、セキュリティの向上に努めていく。
E委員	侵入者対策の防犯体制は、どうなっているのか。	上下水道局	中田配水場には24時間連続で録画するシステムのカメラを設置する予定である。 現在、上関配水場、佐野水源地、国吉配水池等の管理棟や配水池入口には、警報システムが設置してあり、不審者の侵入等があった場合、直ちに上関コントロール室に通報されるようになっている。
【2 国吉配水池の震災対策について】			
A委員	耐震工事を施工するにあたって、地震を想定した地質調査は行ったのか。 また、国吉配水池はどのくらいの震度まで耐えうるのか。	上下水道局	地質調査は実施している。耐震性については、レベル2対応(東日本大震災と同様の震度)にも耐えうる施設となっている。
C委員	耐震工事に使用したアンカーの長さは。	上下水道局	槽全体がすり鉢状の構造であるため、施工場所により長さが違うが、およそ30cm～70cmである。

B委員	<p>緊急遮断弁について、地震感知時に外槽は全閉、内槽は中間閉となる設定になっている理由は。</p> <p>また、遮断弁設置以降の配管について、どう考えているのか。</p>	上下 水道局	<p>緊急遮断弁は、地震等の災害時に水道管が破損して配水池の水が失われるのを防ぐための装置である。しかし、阪神淡路大震災の際に火災消火用の水が不足したことから、そのような事態に備えて、非常時でも水の供給ができるよう、内槽の弁は中間閉とし、外槽は飲料水の確保のため全閉とするものである。</p> <p>遮断弁設置以降の配管については、平成34年に高架配管の耐震化を行う予定であり、市内水道管についても基幹管路を優先し、順次、耐震化に取り組んでいく。</p>
【3 応急給水支援活動報告】			
E委員	<p>今回の穴水町の断水では、配水池の水位低下があったと聞くが、高岡市では、配水池の状況把握は常時可能なのか。</p>	上下 水道局	<p>平成29年3月に更新した集中監視装置は、市内すべての配水池を一元的に監視制御できるシステムとなっており、24時間監視体制が構築されている。</p>